

産学官をつなぐ

モノづくり連携大賞受賞例から

< 5 >

自動車集積に対応

福岡県を中心とする北九州地域は、自動車産業の集積が進んでいる。

関連産業への地場企業の参入に期待が寄せられて

いるが、車体メーカーの現地調達はおおむね50%程度にとどまっているとされる。中でも金型設計分野は自動車各社の生産方式に対応できるレベルに達した企業が少なく、中部地区や関東、関西の企業に依存しているのが現状だ。

NPO法人の北九州テ

クノサポートと北九州州立大学を中心とする「金

属プレス成形金型産学連携研究会」はこうした現状を背景に04年4月に誕生した。

これに先立つ02年に、

北九州テクノサポートは地元企業へのヒアリングを行った。この中で金型設計段階でのトライ回数が多く工期短縮の妨げになっていること、若手技術者への技能伝承が進ん

特別賞

北九州市立大学グループ

でないことなどの課題が明らかになった。

解析ソフトでデモ

北九州テクノサポート

のコーディネーターで研究会運営委員長の石川浩氏は、北九州市立大学園

(今年8月に逝去)がかつて開発に携わった解析ソフトに出会い、地場企業向けにデモンストレーションを始めた。

03年10月にはこの活動に対する解析ソフトメーカーや材料メーカーの賛

同を得て、福岡県の支援もあつた。「若手はパソコンを見て技術レベルの高さに納得し、熟練技術者はパソコンを使うことで言葉にしにくい理屈を説明できた」(石川浩運営委員長)という好例だ。

IT活用し金型設計

技能伝承に高い効果

た。研究会では会員企業から具体的な解析課題を提出してもらい、これを9社にまで拡大。地場企業

の古質金属工業、松本工業、日織プラント設計のほか、大阪府大東市に本社があり、九州に進出したウチタも加わった。



解析結果を前に意見交換をする会員たち

事例は2年間で35ケースに達した。また会員企業の中には自社で解析ソフトを導入する企業も出てきた。

研究会の活動は07年3月でひとまず終了する。会の今後は未定だが「単に努力を提供するだけの地場企業にとどまっていたはダメだ(同)という参加者の思いが引き継がれていく」とが期待される。

(北九州支局長・宗健 一郎)
(火、金曜日に掲載)

科学技術・大学